



# 第36回 村民駅伝競争大会

11月3日 文化の日

タスキでつなぐ

## 地区コミュニティの連帯感

昭和四十八年から始まった村教育委員会主催の伝統行事「第三十六回村民駅伝競争大会」が十一月三日・文化の日に開催されました。

大会には、九つの地区コミュニティから十九チーム、百九十人の選手が参加しました。当日は肌寒く、時折強い雨が降るといふ悪コンディションの中でしたが、どの選手も日頃の練習の成果を發揮。白い息を吐きながら力強い走りですタスキをつなぎました。

### 川北Aチームが 連覇達成

午前十時、女川小学校グラウンドでスタートの号砲が鳴り響き、村内縦断の三十二km十区間で争われる村民駅伝が

### チーム記録

順位	チーム名	記録
1	川北 A	1時間58分09秒
2	霧出 A	2時間00分51秒
3	女川 A	2時間01分38秒
4	上関 A	2時間02分42秒
5	霧出 B	2時間04分20秒
6	四ヶ字 A	2時間04分51秒
7	下関 A	2時間08分20秒
8	九ヶ谷	2時間10分31秒
9	川北 B	2時間10分51秒
10	七ヶ谷 A	2時間11分26秒
11	女川 B	2時間14分56秒
12	湯沢	2時間16分29秒
13	四ヶ字 B	2時間18分03秒
14	上関 B	2時間23分08秒
15	七ヶ谷 B	2時間25分02秒
16	下関 B	2時間30分05秒
17	女川 C	2時間33分49秒
18	七ヶ谷 C	2時間34分53秒
19	下関 C	2時間37分25秒

幕を開けました。序盤は、昨年優勝の川北Aチームが一步抜け出し、霧出Aチームがそれを追う展開。また、女川Aチームと上関Aチームが上位二チームを追い掛けました。

中盤の五区に入ると、霧出Aの走者が区間賞の力走で、一度は川北Aをとらえたものの、終盤にかけて川北Aが他チームをぐんぐん引き離して独走態勢。そんな中、女川Aと上関Aが激しい三位争いを繰り広げました。

優勝は、強さを見せつけた川北Aチーム。二年連続、通算二十一回目の優勝を果たし、金メダルを手にしました。また、準優勝は霧出A、三





### 区 間 賞 (敬称略)

印は、大会新記録

区間(距離)	氏名(チーム名・集落)	記 録
1 (3.0 km)	佐藤 夢希 (霧出B・大 島)	11分01秒
2 (4.3 km)	平田 光 (川北A・小 見)	15分19秒
3 (3.1 km)	長野 涉 (霧出A・上土沢)	10分37秒
4 (1.7 km)	傳 崇宏 (霧出A・大 島)	6分16秒
5 (2.1 km)	駒沢 和也 (霧出A・鎌江沢)	7分41秒
6 (3.8 km)	須貝 隆平 (川北A・高 田)	13分47秒
7 (3.5 km)	平田 達哉 (川北A・平内新)	11分56秒
8 (4.6 km)	坂爪 凜哉 (女川A・中 束)	15分54秒
9 (2.9 km)	小嶋 達也 (霧出A・上土沢)	10分23秒
10(3.3 km)	近 祐希 (川北A・高 田)	11分37秒

位には女川Aが入り、それぞれメダルを獲得しました。川北Aチームでアンカーを務めた近祐希さん(高田)は「チームのみんなが大差でタスキを渡してくれました。この優勝は、選手とこれまで支えてくれた役員皆さんのおかげです。大変感謝しています」と、優勝の喜びを語っていました。

### 親子三世代で タスキリレー

四ヶ字Bチームに出場した船山勝輝さん(勝蔵・関小四年)、船山利勝さん、船山勝雄さんは親子三世代での駅伝参加となりました。これは、駅伝大会が始まって以来初めてのこと。大会では、それぞれ二区・三区・四区を走り、子から親へ三世代でのタスキリレーが実現しました。船山利勝さんは「子から親

にそれぞれタスキを渡すことができて嬉しく思います。来年も挑戦したいです」と話していました。

### 通 算 表 彰

駅伝競争大会に出場している選手を、村教育委員会(渡邊伸榮委員長)が表彰しました。受賞者は次のとおり。

\* 敬称略

- 通算30回出場選手 鈴木 正志(下関)
- 通算20回出場選手 船山 大伸(勝蔵)
- 連続15回出場選手 渡邊 悠(上関)
- 新野 徳人(南赤谷)

